

平成 28 年度 文部科学省

高度人材養成のための社会人学び直し大学院プログラム

「生き生きと働く実践力のある助産師キャリアアッププログラム」

成果報告書

平成 29 年 5 月

国立大学法人長崎大学

本報告書は、文部科学省の「高度人材養成のための社会人
学び直し大学院プログラム」委託費による委託業務として、
国立大学法人長崎大学が実施した平成 28 年度「生き生きと
働く実践力のある助産師キャリアアッププログラム」の成果
を取りまとめたものです。

従って、本報告書の複製、転載、引用等には文部科学省の
承認手続きが必要です。

1. 委託業務の目的

1-1. 業務題目

「高度人材養成のための社会人学び直し大学院プログラム」

生き生きと働く実践力のある助産師キャリアアッププログラム

1-2. 業務の目的

本事業は、産科医療の危機的状況を打開する一策として、助産師の質の向上と量の確保を主目的に、地域に根ざした実践力のある助産師のキャリアアッププログラムとその支援体制を構築するものである。

産科医療の危機的状況として、現在、産科医不足、産科施設の閉鎖による集約化・偏在化、医師主導のハイリスク分娩の増加等が挙げられる。本県の産科・産婦人科を標榜する医療施設は、病院 17 施設、診療所 54 施設であり、年間分娩件数は 11,723 人で、病院と診療所の比率は約 1 : 2 となっている。助産師の就業数は 389 人で、病院と診療所がほぼ 1 : 1 の割合で勤務しており、地域の診療所数に比べ中央部の病院に偏在している状況である（2012 年）。ローリスク分娩を扱う地域の診療所では助産師不足を標榜しており、母子へのきめ細やかなケアが困難な状況がある。また、女性の社会進出等により出産年齢が高齢化してきており、合併症をともなったハイリスク分娩も増加傾向にあり、高度医療を担う周産期医療センターでの高い実践力をもった助産師の需要も高まってきている。

また、産科医療の現状は、産科の混合病棟化や閉鎖による看護師としての勤務実態、病院主体の出産の増加、医師主導のハイリスク分娩の増加、また、助産師のための系統的な現任教育プログラムの欠如などによって、助産師たちが自立してケアを行うような実力をつける環境が希薄になってきている。本事業の教育プログラムは、地域に根差した実践力のある助産師の育成、助産師の確保として潜在助産師の掘起しに貢献し、さらに助産分野における継続教育の認証システム開始に伴う動機づけとなりうる。本県のような多くの島嶼部を抱える地域は、県下の周産期ネットワークをもとに地域の周産期医療を支えている。周産期医療センターに勤務する助産師が、本プログラムを経て地域のコアとなりリーダーシップをとり、自立した助産師として自信をもって産科医療の一端を担うことができる（質の向上）。また、助産師がライフチェンジによって離職した後、継続教育を受ける機会を得ることによって潜在助産師の掘り起しと再就職支援を促進することができる（量の確保）。最新の知識と技術を修得できるように系統的にプログラムされた本事業によって、助産師のキャリアアップを図って、プロフェッショナルとして活躍する場を広げていくことが期待できる。

本キャリアアッププログラムは、最新の情報リテラシーの修得科目、実践能力の修得科目、対人関係能力の修得科目、さらに教育力・指導力の修得科目と専門性の意識改革の 5 つの修得科目の系統的・網羅的な内容を柱とする。実践力を培い自律した助産実践のできる「プライマリ助産師認定コース」と、さらに教育的・創造的助産実践のできるマネジメント能力を備えた「コアリーダー助産師認定コース」の 2 コースを設ける。プログラムの遂行にあたっ

て、県内の主要周産期医療施設との協働および組織化により、支援体制および学習環境を整えるシステムを構築する。各コースを修得した後、長崎大学・長崎県産婦人科医会・長崎県助産師会のジョイント・サティフィケートを授与する。

2. 平成 28 年度における実施内容および成果

【概要】

最終年度となる本年は、コアリーダー助産師認定コース 2 年目、プライマリ助産師認定コースそれぞれの e ラーニングコンテンツの配信を行った。e ラーニングに加え、周産期医療やケアに関する対面授業、新生児蘇生法講習会・地域助産学演習・国際助産学演習・ラボラトリー方式体験学習などの演習、各施設を行き来しての交流実習などを定時に開催した。また 1 年目のプライマリ助産師認定コース・2 年目のコアリーダー助産師認定コースの修了式、次年度の受講生の募集、選定、オリエンテーションを行った。そして、最終年度であるためこれまで実施・展開してきた事業について、第三者によるプログラム評価、社会人学び直し大学院プログラムに係る合同フォーラムにおいて 3 年間の実績と成果を報告・発表した。また、現プログラムの成果を継続発展させていくための後継案件について、実施体制とカリキュラムについて検討、作成した。

2-1. 教育プログラム実施・次年度継続カリキュラム作成

1) e ラーニングコンテンツの配信、対面授業・演習、交流実習の企画と実施

【実施内容】

企画、策定した教育プログラムより、2 年目コアリーダー助産師認定コース、1 年間のプライマリ助産師認定コースそれぞれの e ラーニングコンテンツの配信を行った。コアリーダーコースの対面授業では、「医療専門職と倫理」として助産師として考えておくべき倫理について学んだ。演習では、「地域助産学演習」として地域（五島市）に赴き長崎県の地域母子保健の実際と現地の周産期医療スタッフとの交流、または「国際助産学演習」として渡米し（アメリカ・オレゴン州）、海外での助産師活動の実際と日本との相違について学んだ。また、「ラボラトリー方式体験学習」にて対人関係における自分や相手への気づきを深めた。実習科目では勤務施設において学生への臨地実習指導を行う実習を実施した。プライマリコースでは、昨年同様コミュニケーションやチーム医療に関する対面授業、助産実践能力向上として新生児蘇生法講習、助産所実習、母体の救急時の対応等の演習を行った。他施設交流実習により助産師活動の幅を広げ、県内助産師間の交流を深める実習を実施した。

【成果】

本年より、2 コースの同時開催となり受講生の助産師が総勢 21 名となった。対面授業や演習は両コース合同で実施することも多く、受講生同士が良い意味で刺激し合い助産師間の交流も昨年よりさらに深まり情報交換なども密に行われた。一方的な知識の供給だけではなく、対面授業や演習等を通してより深く意見交換も行われ、また、活動範囲も長崎の離島や

海外と広げ、内容をより深く・広く学ぶ学習の機会を提供することができた。

2) 受講生受講支援

【実施内容】

昨年に引き続き e ラーニングによる自己学習の支援を行った。学習内容理解のための小テストやレポート提出により、受講生の評価を行った。授業コンテンツ毎のアンケート調査も継続し、受講生の声をもとに必要な部分の改善を行った。数多くの授業コンテンツを受講生が漏れなく受講できるようにするため、チェックリストを作成するなどきめ細やかなサポートを実施した。

【成果】

アンケート調査結果は昨年と共通点が多く、臨床現場ですぐに生かせそうな周産期医療に関連した授業については興味や関心、有用度に関する満足度が高かったが、EBM（根拠に基づいた医療）の実践に関する知識や高度生殖補助医療、遺伝に関する知識などは難易度が高く、臨床現場での有用度はやや低い傾向にあった。また、受講チェックリストについてはよく活用され、概ね受講漏れは見られなかったが、一部受講できていない受講生がみられ、受講促進に向けた今後の検討が必要である。

3) プログラム広報・受講生募集とオリエンテーションの実施

【実施内容】

後継案件となる、プライマリ助産師認定コース（1年間養成コース）の受講生募集を行った。応募期間は約1か月を設け、募集要項、応募用紙、プログラムのパンフレット等はホームページからダウンロードできるようにした。また、科目等履修生の制度なども盛り込んだ。長崎県内のすべての分娩取り扱い医療施設をはじめ、長崎県看護協会の助産師会員、長崎県助産師会会員にパンフレットを配布するなどして広く募集を行った。

また、年内に受講決定者を対象としたプログラムオリエンテーションを実施した。次年度すぐにとりかかることができるようにプログラムの説明や学習シミュレーション、貸し出し PC（パソコン）の使用説明を行った。また、今年度はアイスブレイクなどを通して、初回時から受講生同士が交流しやすい雰囲気をつくり、ネットワークづくりを図った。

【成果】

2017年2月初旬に応募を締め切り、9名の受講者が決定した。このうち1名は科目等履修生を希望し、継続学習への意欲が認められた。2年目コアリーダー助産師コース受講者は5名が2年目の学習を継続することになった。

受講生募集に関しては、もう少し早い時期から準備をはじめ、プログラム内容や受講に関する情報をもっと積極的に広報していき、広く県内各地から応募してもらえるような工夫が必要であると考えます。

2-2. eラーニングコンテンツのネットワーク及びサーバー運用と保守管理

1) サーバー・ネットワーク運用と管理

【実施内容】

サーバーやネットワーク運用・管理について、大学内の停電等によるサーバー停止が複数回起こったが、ほぼ例年通りで順調に経過し、大きなトラブル発生には至らなかった。定期的なeラーニングの配信は1月末までとし、最終月の2月は全科目の再配信を実施した。見逃しビデオの視聴や再度の視聴を促したところほとんどの受講生がビデオの視聴を終了することができた。

【成果】

サーバーやネットワークの運用について、ICT技術担当者とともに常に緊密な連携をとりながら進めたことで受講に大きなトラブルがなく、遠隔操作による学習方法としてeラーニング配信が昨年同様一定の効果をあげたことが確認された。

2) eラーニングコンテンツ・講義資料等の管理

【実施内容】

2016年度開講科目である「4. 教育力・指導力を修得する科目」「5. 専門性の意識改革を修得する科目」のうち、まだ撮影できていなかったeラーニングコンテンツの撮影、ビデオや講義資料等の学習用サーバーへの掲載等、配信のための作業を実施した。

【成果】

当初計画した教育プログラムのeラーニングコンテンツのすべての撮影と配信が一通り終了した。「1. Updateな情報を修得する科目」「2. Updateな実践能力を修得する科目」「3. 対人関係能力を修得する科目」「4. 教育力・指導力を修得する科目」「5. 専門性の意識改革を修得する科目」の5科目のうち、内容ごとに分類すると撮影した数は46、ビデオコンテンツ数にすると278に上った。eラーニング撮影のために整備したクロマキー合成による撮影は講師陣からも好評であり、よりライブ感のある授業を行い、受講生に配信することができた。

2-3. プログラム最終年度に係る評価と実績報告

1) プログラム評価・報告

【実施内容】

最終年度ということを踏まえ、第三者評価委員会を組織し、自己評価をベースにしつつプログラムの評価を実施した。評価項目として「妥当性・有効性・効率性・インパクト・持続可能性」の5つを挙げた。評価委員は、一般から大住力氏（公益社団法人 難病の子どもとその家族に夢を・代表理事）、マネジメントの立場で看護職能団体より久家美智代氏（公益社団法人長崎県看護協会・副会長）、助産教育分野より中尾優子氏（鹿児島大学大学院母性・小児看護学講座・教授）に依頼した。評価委員には事前に関連書類を送付し、協議を行

った。受講修了生へのインタビューが行われ、生の声を聴いてもらいプログラム受講がどのような影響をもたらしたのか、学んだことをどのように妊産婦や新生児、その家族、または地域に還元していけるかについて議論を行い、評価を得た。

また、2016年12月16日、東京において「高度人材養成のための社会人学び直し大学院プログラム」14大学合同フォーラムが開催された。その場において3年間の実施における実績や成果について報告・発表を行った。

【成果】

評価委員からは、本プログラムの内容、方法等について高評価であった。今後の波及効果について期待される向きの発言が得られた。また、受講修了した受講生をどのように活かしていくか、個人のキャリアアップにとどまらず、このプログラムを受講した助産師を広く地域において活かしていくための視点を持ち、具体的に取り組みをしていく必要性について指摘を受けた。

上記の合同フォーラムでは、医歯薬学等保健系分科会に分かれ、本学は座長を担当した。他大学の詳細な実績と成果をシェアした後、今後の事業の継続性と実施可能性についてディスカッションを行い活発な意見交換が行われた。本フォーラム内容は、共通のポータルサイトに掲載されている。（高度人材養成のための社会人学び直し大学院プログラム：<https://s-manabinaoshi.jp/>）

2) 次年度教育プログラムの策定

次年度から教育プログラムを見直し、すべて1年間のコースで、これまでのプログラム内容を編成し4科目、120時間/年とした。長崎大学の履修証明プログラム、文部科学省の職業実践力育成プログラム（BP）として再度認定を受けた。

また、科目等履修生制度の適用が受けられるようにした。今後、大学院進学を希望する場合、4科目中2科目4単位を既習科目（Updateな情報を修得する科目→「リプロダクティブヘルステ論」、Updateな実践能力を修得する科目→「周産期救急ケア演習」）として互換することができるというものである。詳細は、以下のとおりである。

履修証明プログラム

「生き生きと働く実践力のある助産師キャリアアッププログラム」講義概要

科目名	講習テーマ
Update な情報（情報リテラシー）を修得する科目 (2単位)	<ul style="list-style-type: none"> • Evidence Based Medicine(EBM)による実践の理解 • 産科領域ガイドライン • 周産期分野の制度・施策 • 最新情報リテラシー
Update な実践能力を修得する科目 (2単位)	<ul style="list-style-type: none"> • 妊娠・分娩・産褥期のケア • 緊急時の対応（新生児蘇生、周産期救急） • 助産師が行う超音波検査 • フィジカルアセスメント

対人関係能力を修得する科目 (2単位)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療現場におけるコミュニケーション ・ 接遇 ・ チーム医療 ・ 医療倫理
教育力・マネジメント力を修得する科目 (2単位)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学び続ける組織風土 ・ キャリアディベロップメント ・ 変革（アントレプレナー）・リーダーシップ ・ 助産／母子保健と地域との関わり

3. 成果の外部への発表

3-1. 学会等における口頭・ポスター発表：

松井香子, 江藤宏美, 佐々木規子, 山本直子, 永橋美幸, 宮原春美, 大石和代, 赤星衣美, 野間田真紀子: 助産師リカレント教育の実施および評価～生き生きと働く実践力のある助産師キャリアアッププログラム 2015～. 第 29 回長崎県母性衛生学会, 長崎大学医学部良順会館 (長崎), 2016.6.12.

長崎大学: 生き生きと働く実践力のある助産師キャリアアッププログラム, 「高度人材養成のための社会人学び直し大学院プログラム」14 大学合同フォーラム, イイノホール&カンファレンスセンター (東京), 2016.12.12.

3-2. 学会誌・雑誌等における論文掲載：

松井香子, 松村悠子, 新谷隆弘, 佐々木規子, 加藤千穂, 永橋美幸, 宮原春美, 大石和代, 赤星衣美, 野間田真紀子, 江藤宏美: 「生き生きと働く実践力のある助産師キャリアアッププログラム」実施報告 2015, 保健学研究, 29, 97-104, 2017.

江藤宏美, 松井香子: 上五島講習会～長崎大学「生き生きと働く実践力のある助産師キャリアアッププログラム」より. 新生児蘇生法講習会開催日より News Letter, 日本周産期・新生児医学会 新生児蘇生法委員会, 7, 10-11, 2016.

3-3. 特許出願：なし